

竹中由香

(日本女大、人間生活学)

**目的**：近年食生活において健康志向の高まりが指摘されている。一方安全性を疑問視する声もある調理済み食品や半調理食品の利用は年々多くなっている。しかし安全な食品を食することは健康の重要な要因である。そこで健康志向と安全性意識との関連を探り、健康志向に適合した消費者行動・消費者意識であるかどうかを調査することを目的とした。

**方法**：調査紙法；調査対象(スーパー食料品売場及び食料品販売店に買物に来た成人女性)  
調査時期(1995年7月)、調査実施方法(配布・郵送法)  
回収状況(配布数940、有効回収数594、回収率63.2%)  
東京都(荒川区・台東区・墨田区)にて291回収、(杉並区・練馬区・世田谷区)にて303回収

ヒヤリング：成人女性5人ずつ2グループにインタビュー

**結果**：自ら健康的な生活をしていると自己評価した人は全体の65.4%であるが、その内実際の食生活においては、焼餃子を例とすれば約3分の1が調理済み等の加工食品を購入しており、手作りする人は約6割である。しかも健康的であると自己評価しながらも手作りする理由に安全性を挙げる人は23.9%と低く、手作りする理由で最も多いのは味で77.5%と高い。さらに健康的であると自己評価しながらも食品添加物に対して39.1%が「しかたがない・心配ない」と楽観的に答えており、輸入野菜の安全性に対する意識も低いなど健康志向、健康的な生活といっても“健康”に対する評価基準はかなり主観的である。これらの結果とヒヤリングによる聞き取り調査をもとに、成人女性の健康志向と安全性意識の関連について考察する。